

東北大鬼城句会報

於： 学士会館

<第10回>句会 1月26日(金)

息白し・漱石忌・大晦日・当季雑詠を含む5句

村上谿聲 選

◎特選

◇佳作

(囲い文字は特選選者 Ex, ㊤)

◎列車待つ不動の駅員息白し

俊 知

※ローカル線の通過駅などで、ただ見送るだけの職務で直立している駅員など、ポッポ屋を連想する。

◎百歳を重ねし母と大晦日

幸 風

※一寸やそつとのことでは体験できない大晦日の幸せな家族の情景です。

◎漱石忌素知らぬ顔の猫過ぎる

如 雨

※漱石といえば、名前のない猫がシンボル。この猫は知らないだろうが、今日は漱石の忌日なのだよ。

◎愚管抄先まだ厚し寒日和

隆 一

※勉強家の隆一氏をもってしても、名だたる愚管抄を読み込むのは溜息が漏れそうな宿題のようです。

◎蟬梅や神戸の悪夢醒めやらず

仲 安

※当事者にはテレビなどで見る追悼記事の何百倍の恐ろしさ、無念さが残ることでしょう。蟬梅が妙。

◇知らせ受け急く足重く息白し

仲 安

◇賀状来ぬ友の安否を気遣ひし

仲 安

◇灯の下を息白き人歩の合ひて

如 雨

◇初詣天狗団扇と下山かな

修 人

◇浩然の気保ちゆかん漱石忌

㊤

修 人

◇鵠(くぐひ)三羽見詰める我も息白し

㊤

㊤

隆 一

◇谷中路を草臥れたれど七福神

隆 一

◇息白し殺気立つ輪に糶(せり)の声

㊤

㊤

蓮 田 池

◇遠耳の母も輪に居る大晦日

㊤

蓮 田 池

◇小人の見上ぐる巨石漱石忌

㊤

俊 知

◇初不動比翼が塚へ涙雨

俊 知

◇初えんまヤットコ隅へ閻魔堂

俊 知

◇顧みず繰りごとと言はず大晦日

如 雨

◇鳥待ちて蓄ふくらむ庭の梅

興 山

◇文明の危うさ想ふ漱石忌

隆 一

◇気がつけば老々介護の七日粥

幸 風

◇大晦日大地に染みる時の音

貞 風

◇オホーツク羽ばたき降りて息白し

㊤

武 司

○こがらしや又も友逝くさびしさよ

竹 風

<互選高点句・特選句より>

5点 息白し殺気立つ輪に糶(せり)の声

蓮 田 池

4点 顧みず繰りごとと言はず大晦日

如 雨

4点 初詣天狗うちはと下山かな

修 人

3点 豁然と富士現はるる息白し

㊤

修 人

3点 病床の妻と鐘聞く大晦日

㊤

仲 安

2点 隠居老思ひは無色屠蘇旨し

幸 風

1点 松代は中将の墓冠雪

㊤

隆 一

村上谿聲 作

こはごはと安否問ひけり初電話

犬好きは犬のこと書く漱石忌